



森のながま

2020年 4月号

NO. 144 (継続289号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

第11回森林文化講演会 「防災と自然保護」

～新しい自然保護のながれ～

令和2年2月9日 講師 岸 由二氏(慶應義塾大学名誉教授・理学博士)
桜美林大学PFCにて



11回目を迎えた恒例の森林文化講演会を2月9日(日)講師に岸 由二氏をお迎えし桜美林大学PFC(プラネット淵野辺キャンパス)P202教室で開催しました。一般5名、森林インストラクター60名の合計65名の参加でした。

昨年2019年10月13日の台風19号では、新横浜多目的遊水地(新横浜公園、日産スタジアム)が水を貯め鶴見川は氾濫しませんでした。講演依頼を台風以前にお願いしていたので、いいタイミングとなりました。

降った雨は、くぼ地に支流となり集まり続け本流となり下流と流れます。都市化の進んだ鶴見川では、豪雨でなくても1970年半ばの段階で氾濫しました。今までの治水対策(河川法、下水道法)では限界に達してしまい流域全体での対策が必要であると緑地、水田の保全、雨水調整施設の配置や国、自治体、市民・企業による総合治水(流域連携治水)が1980年から実地、40年になりました。その間、地域連携の『流域水マスタープラン』自然環境の保全・回復分野の鶴見川流域ネットワーク(TRネット)と活動されています。



質問風景

自然保護とは、過去の状態に戻すことではなく人間と共存しながら防災も考え、活動していると聞きし2時間がとても短く感じました。

今年も沢山の参加者、後援、協力をいただき盛大に開催でき感謝しております。ありがとうございました。

<記 森林文化部会 菊地 昭子①> <写真撮影：井出 恒夫①>

後援：神奈川県、相模原市、神奈川県森林協会（支援も）、
（公財）かながわトラストみどり財団、神奈川新聞社
協力：桜美林大学

講師プロフィール：
慶応義塾大学名誉教授・理学博士
NPO法人鶴見川流域ネットワーク 代表理事
NPO法人小網代野外活動調整会議 代表理事

<講演会感想と小網代の森の紹介>

少年期から鶴見川流域にお住まいだった岸先生は、洪水にあった経験もお持ちで、どのように流域を守るかについて熱く語っていただきました。自治体はその境界線までしか考えないので、どうすれば流域全体として考えられるか、国との関係など興味深い話を伺いました。

川の源流部では、森の手入れをして保水能力を高めること、（ただし昨今の局地豪雨のような100年洪水では保水しきれない）また調整池をたくさん作ること、中流域では広大な遊水池を作ること、下流部は護岸をしっかりとすることで川の氾濫は防げると伺いました。

2/9は、テーマが「防災」でしたので鶴見川流域のお話で時間が無くなってしまいましたが、「小網代の森」のスライドもたくさんご用意いただきました。

源流から海までそのままそっくり残された自然、都市周辺では奇跡的な流域「小網代の森」を開発から守った岸先生ですが、その経緯や手法、“自然”保護の考え方が、会場でも販売していた「奇跡の自然の守りかた」岸由二/柳瀬博一著 に若者向けの平易な文章で書かれています。是非お読んでみてください。

小網代の森には かながわトラストみどり財団も多大な貢献をしています。下記のようなイベントもありますので、参加してはいかがでしょうか。

- ・ホテルの観察会
- ・アカテガニの放仔観察会

詳しくは、かながわトラストみどり財団のホームページ（<http://ktm.or.jp/>）をご覧ください。（記 黒川 敏史⑭）



アカテガニ

かながわトラストみどり財団のホームページより